

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200529		
法人名	社会福祉法人 豊の里		
事業所名	グループホーム2ユニットひまわり	ユニット名	ひまわり
所在地	宮崎県都城市葦原町1839-9		
自己評価作成日	平成22年6月9日	評価結果市町村受理日	平成22年9月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570200529&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成22年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来、地域に根ざしたGHである為に、これまでも色々な取り組みを行ってきた。利用者の思いや健康面には十分配慮し早期発見、早期治療で医療との連携もスムーズに行っている。特に本年度は、月2回の音楽療法により利用者、職員共々活気あふれる雰囲気を感じている。家庭的な雰囲気づくりと利用者、職員共に、はつらつと笑顔が絶えない雰囲気づくりに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域に開かれ、地域に愛される事業所」を理念に掲げ、ホームを地域に支えてもらい、お役に立つことを職員全員で積極的に取り組もうという姿勢が見られる。定期的な運営推進会議は質の高い内容で、地域代表の推進委員が第3者的な立場で支援し、助言や協力が得られることで、ホームの質の向上にもつながり、職員の励みにもなっている。法人の年度方針である凡事徹底(いかなる時にも、当たり前前)のことが当たり前のように出来ることを、管理者は職員に伝え、職員研修の充実や資格取得の支援を行い、職員の育成に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に愛されるために、より専門的で安心と信頼される利用者本位の質の高い、福祉サービスの提供を目指し、地域に密着した事業所作りに努めるために、毎日朝礼時に理念を全員で唱和している。	ホーム独自の理念を作り上げ、地域に密着した事業所づくりがうたわれ、職員自ら地域との関係強化につなげる取組みがなされている。利用者本位のサービスを心がけ、ケアで気づいたことはすぐ検討し、実践することを大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩を通しすれ違う地域の方と挨拶を交わしている。また、公民館行事(総会・掃除)等に参加をしている。	自治会に加入し、地区の行事にも利用者と共に参加し、住民の方との交流をすすめている。地域住民の介護相談に対し、民生委員と協力しながら対応し、地域と支えあいの関係を大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館の総会の場を借りて、認知症GHの理解(エスケープなど)の話をさせて頂いたり、民生委員さんを通じ情報の発信をしている。また、本年度、第1回ひまわりの種7/15発行し回覧して頂いた。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会会長の参加で家族会総会時には、運営推進会議の内容について総評を頂いていることで、色々な面で家族の協力を頂いている。会議の場を通じ民生委員より地域の方の相談事例について一緒に検討している。	行政や社会福祉協議会職員、民生委員、家族代表の参加を得ながら、行政、社会福祉協議会主導で質の高い会議が行われ、さまざまな意見や助言が得られている。ホームの現状が分かりやすいように、視覚に訴える(写真)工夫をしており、資料も豊富である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場を通じ、民生委員からの相談と一緒に検討したり、行政の立場からの指導や助言を気軽に頂いている。パンフレットや資料を提示していただいたりしながら一緒に学んだりしている。	管理者は、市担当者と運営上の報告や課題等について、気軽に相談できる関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議において、徹底的に話し合いを行い、届く和室のソファで過ごして頂いたり、職員の目の届く位置に座席を設けたりしている。また、他利用者にも理解を頂くため、職員が話しを取り持つなどの工夫をしている。	鍵をかけることに関しては、利用者の安全や尊厳を重視した考えを、職員間でかなりの時間をかけ検討している。昨年は、鍵をやむをえずかけていたが、職員間の連携や努力で、ほとんど鍵をかけないケアが出来ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時うっ血痕や、外傷がないか確認している。また、毎日、朝夕の申し送り時、手・足の露出部分にうっ血痕や外傷がないか早期発見に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を活用されているご家族を通じ、制度や実体験を学び、相談を含め共通理解を共有している。また、他入居者のご家族に該当者がおられ話題にすることもある。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、利用契約書、重要事項説明書を読み上げ、疑問点等を確認し、理解と納得をいただき契約に結び付けている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	益・正月帰省時アンケートと年2回のアンケートや、面会時利用者の状況報告及び要望が聞き取れるようにしている。	家族のアンケートを実施し、意見や要望が上がればすぐ職員間で話し合い、その場で改善するシステムが出来ている。家族が何気なく漏らした言葉でも聞き逃さず、家族がいる時間内にすぐ改善するよう職員間で徹底している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やスタッフ会議の場で、意見を聞いたり、年2回の人事考課に伴い面談を行い、伝える事ができている。	スタッフ間で統一したケア実践することを大切にしているため、常日ごろから意見交換や職員交流は大切にしている。また、年に2回の人事考課の際、職員ごとの資格取得に向けた話し合いが行われるなど、意識を高める工夫がなされている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時は本人の希望休を取り入れたシフト作りをしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内外の研修を受けられるように計画を立てている。事業所全職員が共有できる様に作成し、ミーティングで発表している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉連絡協議会の研修参加や、連絡協議会の研修参加を通じ、質向上に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心するまで傍で傾聴したり、散歩に誘ったりしている。家族の面会時には、家族水入らずで自室で話をしたり、家族と一緒に散歩に誘ったりしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護計画を立てる前に家族の意向を聞き随時計画についての説明を行い、スタッフにはスタッフ会議や朝夕の申し送りにケアの伝達をしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のできる事、できないことをアセスメントで情報収集し、本人と話し合いながら洗濯物たたみや台所片付け等、一緒に楽しく行えるようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃からレク活動や簡単な家事療法などを行うときは、まず本人へ意思を確認する。利用者同士で歌を唄ったり会話をしたりできる様にスタッフも心掛けている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会の行事を通じ、年間計画に沿って実施している。家族ぐるみでの参加が多く、面会等も多い。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者家族よりお花見の招待を受け、自宅に全利用者スタッフで訪問している。在宅の民生委員や地域の知人、近所の友達などたびたび面会に来て頂いている。	関係の深かった場所や人間関係を継続するための努力や取り組みは行えているが、なじみの人も高齢となっている状況下で、全ての利用者ごとの支援は十分できているとはいえない。		利用者一人ひとりに生活歴があり、そこには友人、知人、大切な場所があることを念頭に置きながら、その関係を断ち切らないような支援をお願いするとともに、今まで以上になじみの関係を引き出す仕組みを検討してほしい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動や散歩、学習療法など実施する時は、利用者にそれぞれに声を掛け行く。また、要望や意見を一緒に話し合ったりしている。			

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	疾病やケガで入院が発生した場合は、主治医、または専門医、家族、管理者を含め経過を追いながら、相談に応じ、ロングタームケアに繋ぎ、グループ内での対応ができています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の要望を聞き、「何がしたい」かを聞き取り遠出や好きな音楽を流したりして工夫をしている。	利用者からの訴えが少ない方には特に、利用者の思いに気づけるよう、様々な場面でかかわり合い、職員全員で考え続け、試行錯誤し取り組んでいる。利用者や家族から知り得た情報は、職員全員で共有するよう心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用者からこれまでの趣味や得意なものを聞きとり、本人が好きなことで、できる事を積極的に参加できる様に行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできる事に合わせて、何がしたいか尋ねてその人と一緒に行っている。たとえば洗濯干し、洗濯たたみ、食器拭き、台拭き、室内の掃除、庭掃除など、その時の気分で誘っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員でモニタリングを作成し、新たな発見や、状況をその都度確認し、介護計画に反映させている。	日々の申し送り時やミーティング時に、介護計画やケア検討を行い、利用者がその人らしく暮らせるよう職員全員で話し合っている。来訪時や電話などで、家族の思いを聴きだす取り組みをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を作成し、ミーティング時に報告を兼ね情報の共有化を図っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や行政関係、病院受診など家族や本人の希望に応じその都度対応している。			

宮崎県都城市 グループホーム2ユニットひまわり（ひまわり）

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお店での買い物や、民生委員を通じて公民館活動の誘いや問い合わせの協力も頂いたり、総会、運営推進会議に参加して意見をもらったりしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する専門医はそのまま継続し受診に出掛けている。また、主治医による週1回の定期回診や物忘れ外来で健康管理ができています。	ホームの協力医が週に1回往診し、何でも相談が出来る体制が整っている。夜間の緊急時にもオンコールで対応してもらえる体制になっており、安心が得られている。協力医主催の研修もあり、職員も参加する機会がある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定や回診時は利用者に付き添い、医師の話を聞いたり相談を代弁し安心して受けられるように工夫している。勤務医の連絡表で緊急時の連絡をスムーズに取れるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院発生時は主治医、または専門医、家族、管理者を含め、話し合いを行っている。経過を追いながら、状況の進行に伴い、家族・本人の希望に副えるようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	AEDなどの使用や取り扱いをスタッフ会議で実例を通して行っている。	重度化や緊急時に職員が適切に対応が出来るよう、AED(自動体外式除細動器)の取り扱いや協力医の研修を取り入れている。また、利用者の段階に応じて、医師・家族を含めた具体的な話し合いがなされている。看取りの経験で学び得た内容を、法人全体の会議で発表する機会があり、職員の意識が高まっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの取り扱い方の勉強会を行ったり、夜間を想定し、家族と地域住民の方を交え総合防災訓練を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣事業所との会議を月1回設けており、会議のテーマの中で話しあいを実施している。近隣事業所の防災訓練にも参加、しお互いの連絡調整を行い、日ごろから連携を取っている。	防災訓練や設備の点検時に、利用者と共に消火訓練や避難訓練を行うなど、災害時に備え取り組んでいる。地域の方への協力や支援をお願いし、地域住民を交えた訓練も行っている。十分な備蓄もしており、定期的な点検も行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の不快な気持ちになるような言葉やケアをしないように心掛けている。利用者の羞恥心に気を配り、特に「トイレ誘導や入浴時は十分配慮したケアを行っている。また、スタッフ会議や新人職員の研修時も話し合いをしている。	利用者の尊厳を大切に言葉かけや、気遣いのあるケアがさりげなく出来るよう、常日ごろから管理者は職員に伝えている。調査時、職員が利用者に話しかける際も、同じ目線で対応し温かみを感じられた。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを聞き、利用者の体調に合わせ、近隣の散歩や希望者には遠方への散歩などの支援を行っている。また、化粧品や小物など買い物希望者には外出支援を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や気分、表情、会話から一番やりたい事を確認しながら支援している。時間帯によって自室でラジオを聴く、テレビを見る、本を読む、友達の部屋で会話をするなど、それぞれ自由に行い見守りながら支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔後、髪をとかしたり、自分でひげを剃る様促している。選択ができる方には洋服を見せて選んで頂いている。また、化粧品を必要とされる方の化粧品購入も一緒にでかけている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、食器拭きなど、利用者と一緒に会話しながら行っている。昼食は同じ物を一緒に食べ、介助を必要とされる方のペースに合わせながら行っている。	中庭で栽培した野菜やスイカなどを利用者と収穫し、食卓に乗せ、利用者と共に実りを楽しみながら食事をしている。食堂は台所と対面型になっており、ご飯を炊く匂いや料理をする音や茶碗を洗う音が聞こえ、利用者がかかわりやすい環境になっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分摂取を記録している。手作りおやつや飲み物、果物など、身体状況に合わせた食事形態の工夫をし、（水分摂取困難者にはゼリーを毎日作る）毎月の体重測定を実施している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に洗面所で出来る利用者は、誘導し見守り、洗面所で出来ない方は、居室で義歯を外してもらい洗浄後本人へ渡す。歯磨きが出来ない方には、最後にお茶などを飲んで頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレが分からなかったり、間に合わない時は排泄パターンをつかむまで時間を短くしながら誘導を行っている。ズボンの上げ下ろしが出来る方には時間をかけながら本人を励ますように心掛けている。	何が問題でトイレで排泄できないのかを職員全員で検討し、トイレが認識できない利用者には、トイレと認識するマークや文字を探し出し、時間をかけてあきらめず対応している。排泄が自力で行えた場合は、利用者と共に喜び達成感が得られるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多くし食物繊維のある物などを考えておやつに提供する。便秘が3日以上になると、医師と相談し早めに対処するように支援している。運動や散歩も本人の能力に合わせて行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は1日おきに実施し、本人のお湯加減や1番風呂、遅い方などの希望を活かし、時間帯を選んで入浴している。入浴拒否や入浴ができないときは、清拭や足浴に切り替え本人の気分を尊重して行っている。	2ユニットのホームであるが、1日おきにどちらかのユニットが入浴日になるようにしている。入浴日は職員の手が取られるが、その際、緊急なことが発生しても一方のユニットが支援できる危機管理体制が出来ている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に散歩や活動を取り入れ、眠れる様に工夫している。また、就寝時間も本人に合わせている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬は、定期的に処方されたものを各自セット管理し、毎回確実に服用したか確認している。回診や専門医へ服用に対しての報告を行い、相談や次回の処方につなげている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の気分に合わせて受診後や出掛けた時、近くのお店でケーキやジュースなど軽食するなどして気分転換を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望がある時は、マップによる公園コースや遠方への散歩を行っている。本人の希望する買い物や家族の協力を頂き、家族会行事、地域行事に出掛けている。	散歩は、暑い夏場は控えるが、過ごしやすくなった時期からは、ほぼ毎日行い、ホームに閉じこもらない支援をしている。外出や買い物の希望がある利用者には、できるだけ希望に沿えるように対応している。しかし、希望の少ない方に対しての一人ひとりの支援は今からである。	利用者全員で参加する外出の機会は積極的に取り入れ、十分に出来ているが、希望の少ない利用者の個々の支援を再度、職員全員で検討してほしい。	

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が望む時は、買い物の時に自分で支払いをして頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	こちらからの要件で電話を掛けた時や家族や姉妹から電話がかかってきた際は、状況に応じ本人と会話ができる様支援している。。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花を飾り、苑内に野菜、花を植え眺めて楽しめる様にしている。また、快適な生活が出来るように寝具を干したり消毒や清掃をするなど環境整備をしている。	不快な音や臭気も無く、採光、室温は居心地よく過ごせるよう配慮されている。利用者の身体状況に応じたいすや足置きが準備されている。リビング兼食堂からは、常に中庭が見え開放的な環境である。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂で食事を摂ったり、レク活動や体操、お茶飲みなどを決まった席で気のあった利用者と話ができる様にしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた布団や衣類、また、家族の書いた手紙、絵や写真、家具などを持ち込み、本人が自分のものと分かることで安心するように家族に話をしている。居室を面会や更衣時のプライバシーにも使用している。	利用者が居心地良く過ごせるよう、テレビやいす、シルバーカーや造花などが持ち込まれている。利用者によっては、室内の扉が重くて開けにくい所は、プライバシー確保のためカーテンを取り付け、利用者の状態に応じ、環境を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室に名前入りの紙や、トイレに印をつけたり、分かりやすくしている。			